

光プロジェクト 令和２年度 「教育学部系進学研究会」(茨城大学との連携)

○ 実施日時

令和２年１２月１９日（土） １３時３０分～１５時３０分

○ 実施場所

下妻第一高等学校 学習館１Ｆ「多目的ホール」

○ 対象生徒

本校生徒 教育学部系進学希望者 １年 22 名， ２年 19 名 計 41 名

○ 講 師

小川 哲哉 教授（茨城大学教育学部 全学教職センター長）

教育学部学生（本校卒業生）

吉原 叶花 さん（教育学部教育実践科学コース４年）

岡野 里佳子 さん（教育学部教育実践科学コース３年）

茨城大学教育学部の 小川 哲哉 教授をお招きしての「教育学部系進学研究会」ですが、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、今年度も実施されました。

参加した 41 名の生徒たちは、まずは小川先生の講話を通して大学における教育学のあり方を学び、続いてアクティブラーニング形式によるグループ学習（動画の作成）を行いました。例年大いに盛り上がるコーナーではありますが、今回も生徒たちは予定された時間を１時間以上超過するほど活動に熱中していました。最後に、ICT 活用によるグループ発表を通して、全体での意見交換等も行いました。参加生徒たちは教育について様々な視点から考えを深め、新しい表現手段を学び、自主的に工夫することができました。

時間的な制約の中、ご指導をいただいた小川先生、そして協力して頂いた大学生（本校卒業生の吉原さん、岡野さん）の丁寧で的確なお導きに対し、心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

<アンケート結果から>

設問１ この行事に参加した理由は何ですか。

- ・ 教育系や教師といったことに興味・関心があり、将来も教育系に進学し中学校の先生になりたいため。
- ・ 教育学系に進みたいと考えていて、それについて学べるいい機会だと思ったから。
- ・ 将来教員を志望しているから。茨城大学で学びたいと考えているから。
- ・ 少し興味があるが迷っているから参加しました。
- ・ 将来の夢を模索中のため、たまたまこの光プロジェクトの存在を知ったから参加しようと思った。

- 私は教育学部に進み、教員の仕事に就きたいと考えているからです。また、私は心理カウンセラーや教育心理学に興味があり、教育実践科学コースは教員免許を取るために必要な授業もありながら、不登校やいじめに対することも学習できるということで自分の学びたいものに合致していたからです。

設問2 茨城大学の小川教授および学生の方々から、感じたことや学んだことを書いてください。

- 自分がどんな先生になりたいか想像して、そのために今どんなことができるか考えてみようと思った。
- AIを使うが頼りすぎず、生徒に合わせた対応をしていくことが大切だとわかった。
- 高度情報社会においてのこれからの教育に求められていることを学べた。
- 小川教授のお話から学ぶこともたくさんあったが、それだけではなく、自分達でこれから必要となってくる先生像を考え、動画を作成したことで主体的により深く学ぶことが出来た。将来について考える良い機会となった。
- 知識伝達型の授業方式ではなく、生徒たちが自ら考えられるような授業方式が取られるべきであることや、コンピューターを使えることが必要不可欠であると学んだ。
- これから情報化が進むことで、教育の体制も変わっていくけど、生徒一人一人と向き合う事は、変わらず一番大切なことだと感じた。
- 今までの授業の仕方じゃ至らない点がたくさんあることを知った。今ではIT化が進んでいるので、ITを有効的に使った効率的な授業が必要だと学んだ。
- これから必要とされる先生になるためには、AIやICTを使っていく上でどのような場面で利用していくかを状況に応じて考えることが必要だと感じた。
- 効率や質などをとても重視していてとてもスピーディーだった。これが社会なのだと感じました。
- 一つの方法にこだわるのではなく、様々な方法でひとつの事を対処できる力が必要だと感じた。これからは生徒にただ教えるだけでなく生徒自ら考えさせたり生徒の心に寄り添うことが大切だということが分かりました。
- とても話しやすく、質問にも真摯に答えてくださり、意見を明確にするのも手伝っていただき、優しさや憧れを感じた。
- 何か一つのことを行うにしても、色んな見方、思考があるが、それを1個1個評価して下さったところがすごいなと感じた。自分の考えを持つこと・相手のことを尊重することのバランスをとることが大事だと言うことを学べました。
- 小川教授のお話は、固定された概念にとらわれず、これから先のIT社会に向けた教育論を展開していってらっしゃって、すごく参考になった。また、今回参加して下さった茨城大学の学生さんも、発表している生徒や小川教授のお話を、相槌をうちながら聞いていたので、自分も今後そうしようと思った。
- 自分のなかで理想像を掲げることは大事だと思った。それに近づくための自分に足りていないものを自覚して、現代の社会のスタイルに対応させながら自分がなりたい先生になりたいと思った。
- これからの先生に求められていることを知ることができて良かったです。大学生の方々も先生のように指導してくれたので、茨城大学は先生を目指すのに適していると思いました。

- 大学生と高校生はやはり違うなと感じました。大学に入ったら自分の関心がある分野をもっと勉強できるのはとても楽しみだと思います。

設問3 今回の事業に参加して、「教職」に対する理解は深まりましたか。



選択肢1	21人(58.3%)	大いに深まった
選択肢2	14人(38.9%)	深まった
選択肢3	0人(0.0%)	どちらともいえない
選択肢4	1人(2.8%)	あまり深まらなかった
選択肢5	0人(0.0%)	深まらなかった

設問4 今回の事業に参加して、「教育学部」での学びに対する関心は高まりましたか。



選択肢1	22人(61.1%)	大いに高まった
選択肢2	13人(36.1%)	高まった
選択肢3	0人(0.0%)	どちらともいえない
選択肢4	1人(2.8%)	あまり高まらなかった
選択肢5	0人(0.0%)	高まらなかった

設問5 今回の事業に対する感想や、講師の方々への質問、メッセージを記述してください。

- 教師という職業について考えるいい機会になった。また来年も参加したいと思います。
- 初対面の人と何かを作ることがなかったので新鮮でした。
- 教師や教育についての興味がさらにわきました。この講義に参加してよかったと思いました。
- 講師の方々の説明とともに自分達でこれから必要となってくる人材を考え、教職について理解と関心が深まり、とても実のある時間にすることができました。本当にありがとうございました。
- 教師に求められているスキルなどが分かった。しっかりパソコンなどの機器をしっかり使いこなせるようにするべきと考えた。しっかり社会の変化に応じて対応とできる人になりたいと感じた。今日は忙しい中ありがとうございました。
- 今回の事業を通して教員の在り方も時代に合わせて対応していかなければならないのだと思った。また自分の将来のことについてこの事業を活かして考えていきたいと思った。
- とても興味深い内容で、楽しかったです！ 定期テストがない学校もあると聞いてとても驚きました。わたしも定期テストのために勉強するのではなく、将来を見据えて勉強したいと思いました。



